

# 伝統的工芸品産業事業者の 魅力を伝える 知的資産経営報告書

～伝統的工芸品産業事業者の魅力とそれを支える知的資産を明らかにする～

美術館に並ぶ江戸や京都の本物の漆器  
そんな美と技を目指し、  
一切の妥協を許さず、こだわり続けた結果  
たどり着いたのは、  
美しさだけでなく、人の思いを伝える作品  
人の思いを物語に  
その物語を作品に  
その作品を掌に

彦十蒔絵

2011年9月発行

# INDEX

1. 当社の代表製品	.....	1
2. 当社の概要	.....	2
3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり	.....	3
4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産	.....	4
5. これからの挑戦	.....	5
6. 代表者からのメッセージ	.....	5
7. 作成支援士業コメント	.....	6
8. 知的資産経営とは	.....	7

## 1. 当社の代表製品



## 2. 当社の概要

### ■ 経営理念

人の価値観や生き様に共鳴することで、その人に「しあわせ」を感じていただける作品を創り出す。

### ■ 当社の特長

#### ● 輪島塗の技法にとらわれず、最適な技法を採用

代表は、輪島塗の塗りや加飾の技法を修得しております。輪島塗以外の技法についても江戸や明治時代の漆技法を研究し、職人に指示が出せるまでに修得しております。このため、基本は輪島塗の技法ですが、その枠にとられない最適な技法を採用することができます。

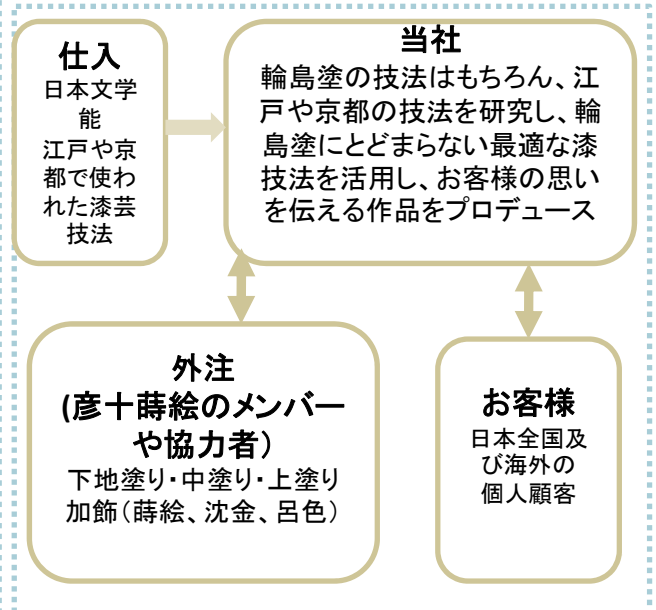
#### ● 物語が秘められた作品

当社の作品は、人の思いが込められた物語を秘めています。その物語は、源氏物語や新古今和歌集等日本文学を題材にしていることが多いです。作品にはその物語をテーマとした加飾を行っています。

#### ● 掌に乗るサイズ

当社は、人の思いを漆芸品として具現化し、人の心の役に立つ作品を目指しています。1つ1つに人の思いが詰まっているため、いつまでも保有していただけるよう大きさも掌サイズを基準としています。

### ■ 当社のビジネスモデル



### ■ 企業概要

【代表者】 若宮隆志  
【住所】 石川県輪島市気勝平町1-188  
【業種】 輪島塗  
【従業員数】 1名

### ■ 沿革

昭和63年 喜三誠山師より蒔絵技法を教わる  
平成6年 下地塗りを母や友人より教わる  
平成7年 輪島民芸家具(輪民)を立ち上げ自宅の木材などを用い家具や器を家族で製造する  
平成10年 平澤道和師より乾漆技法や漆の天日黒目などの漆芸の基礎を教わる  
平成16年 彦十蒔絵の名前で発表を始める  
平成17年 ポーラミュージアム銀座にてグループ展を開催  
平成18年 白貫入塗 抹茶碗 不二がドイツラッカーミュージアムに收藏される  
平成19年 漆芸類 変わり塗 六条御息所がロンドンビクトリア&アルバート・ミュージアムに收藏される  
平成22年 名古屋栄三越「彦十蒔絵 若宮隆志の世界展」ロンドン・ギャラリー27「彦十蒔絵展」開催

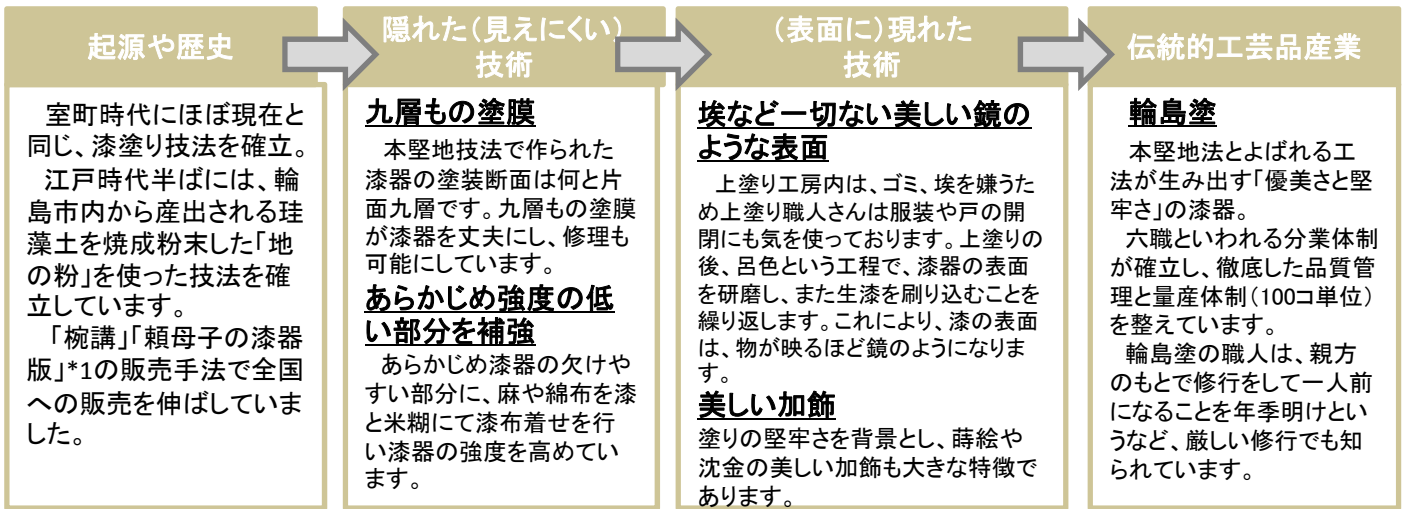
### ■ 連絡先

TEL : 0768-22-6801 FAX : 0768-22-8651  
E-Mail : tttm@wajima.nsk.ne.jp  
担当者: 若宮隆志

### ■ アクセス



### 3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり



\*1 全国各地に輪島塗購入の積み金を行うグループを作り、そのお金でまとまった漆器を購入する仕組み

#### ■ 当社のこだわり



桜雪吹



五節供



源氏物語

- ・若宮隆志が保有する過去の芸術的技法を発展させる能力
- ・若宮隆志が文学や歴史を背景とした人の思いを作品に秘める能力
- ・若宮隆志が描く思いを具現化する彦十蒔絵プロジェクトのメンバー

- ・日本の文学、能、昔話
- ・輪島塗の伝統的技法
- ・過去の著名な漆の名工の作品

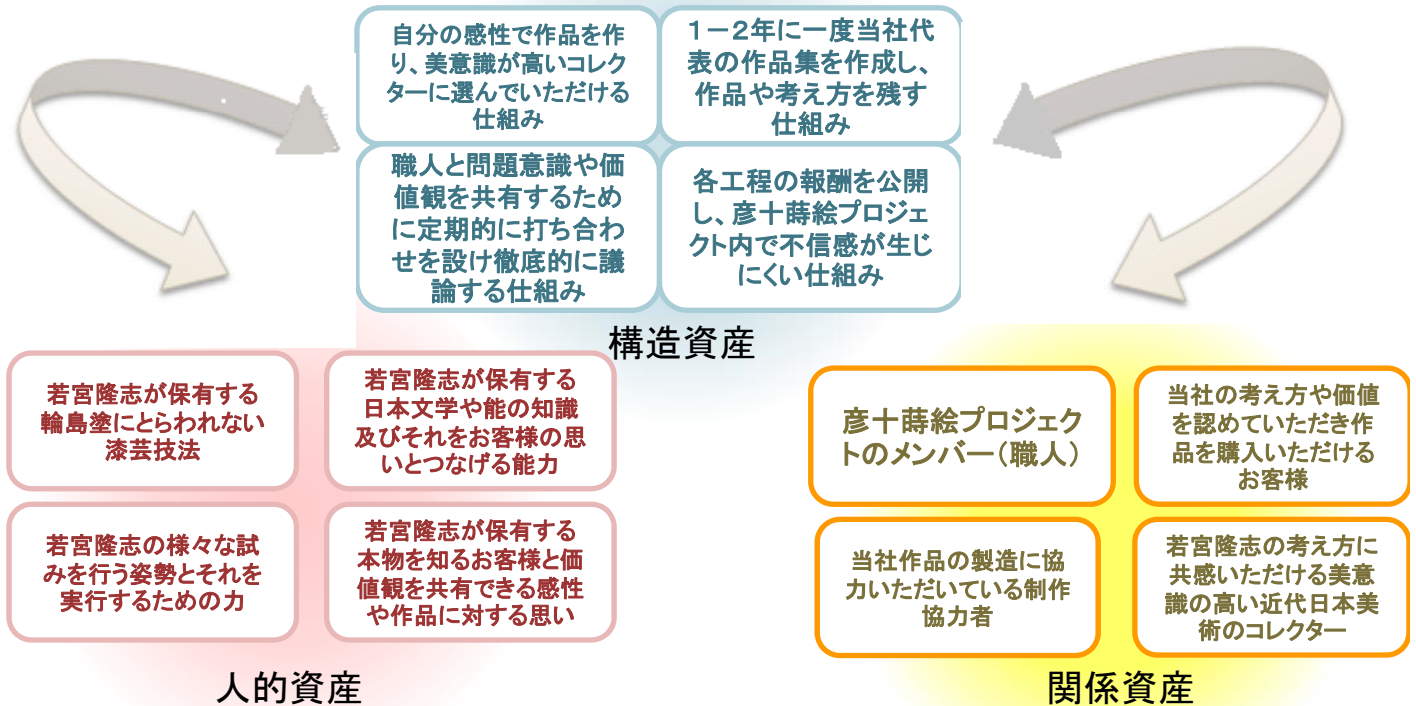


## 4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産

### ■ 当社のこだわりはなぜ形成されたの？（過去から現在の価値創造のストーリー）

輪島塗の技法にとらわれない	人の思いを作品に	全体的な問題意識を持つ職人で構成された彦十蒔絵プロジェクト
<p>代表は、本物を求めるお客様に輪島塗を提案したところ、まったく相手にされず、そのことをきっかけに漆芸品の研究を始めています。美術館にある江戸や京都などの漆芸品は、輪島塗よりはるかに美意識が高いものばかりでありました。そこから、輪島塗にとらわれない過去の技法の研究を行っています。その結果輪島塗の技術はベースにあるものの、最適な技法を選択することができるようになりました。</p>	<p>美術館にある江戸や京都などの漆芸品は、特別な人が特別な時に使うすなわちハレの日に使われることがほとんどであります。例えば、国宝の漆器である初音の調度は、源氏物語をテーマにしています。徳川家光が幼くして嫁いだ長女千代姫の婚礼道具として作製したものであり、源氏物語の同様の話を做ったものであります。このように、当社は、特別な人が特別な時にその思いを伝えられる作品を作っています。</p>	<p>代表は、自ら技法の研究を行っているため、職人以上にその工程に明るいです。このため、職人に漆の種類や地の粉の量など細かな指示を出すとともに、その理由を明確に伝えてきました。また、輪島塗は分業体制が続いているため、職人が全体的な問題意識を持つことは少ないです。このため、代表は徹底して職人と問題意識や価値観を共有し、かつ、各工程の報酬も公開しています。このことで代表と価値観を共有した本物を目指す職人が彦十蒔絵プロジェクトに集まっています。</p>

### ■ 当社のこだわりはどのような人や仕組みで支えられているの？



### 【提供する顧客価値】

お客様と価値観を共有し、その思いを物語・蒔絵・デザインに秘めた人の気持ちを表現した作品

当社の作品は、本物を知るお客様に対し、価値観を共有できる若宮隆志の感性及び作品に対する思いなくして、創作することはできません。また、この思いや価値観を共有した職人によって、若宮隆志の思いが具現化されていきます。さらに若宮隆志の考え方に共感いただける近代日本美術のコレクターなくして、この作品が、世界に羽ばたくことはありません。さらに、定期的に作成している作品や考え方を記した作品集は、若宮隆志がいなくともその考え方や思いを伝えるツールとなっております。

## 5. これからの挑戦

- 当社は常に進化します。(未来の価値創造のストーリー)

価値観を共有する	作品を通じて代表の思いを伝える	お客様と共鳴できるまで自分を高める
<p>当社のお客様は、本物の漆芸品を求める方がほとんどです。当社のお客様はいろいろな思いを抱えている方がいらっしゃいます。代表は、作品を通じてその思いや価値観に共有することを大切に考えております。すなわち仏教や西洋美術を背景とし、作品にその人その人の癒しを込めて作品を創作します。</p>	<p>当社は、作品を通じて世の中に自分の思いを伝え、そしてその思いに共感いただけることを非常に大切に思っております。特に日本人の美意識や情緒に関する価値観を作品を通じて伝えていきたいと考えております。そのためには、作品に代表の思いを込め、その思いに共感いただける方に対してのみ、思いを説明し、深く共鳴したいと考えております。深く共鳴いただけた方は、日本全国もしくは世界に代表の思いを伝えていただけるかけがえのない協力者となります。</p>	<p>お客様と価値観や精神を共鳴するためには当然に少なくともお客様と共鳴できるまで、表現力や感性を高めなくてはなりません。このため常に技術力(=表現力)や精神レベルを高めることを行っています。たとえば、代表は、数年前に、漆を自ら植え、自ら掻くという行為を行い、漆が本当に貴重なものであることを身を以て体験しています。代表は、これからも一切の妥協を許さず自らを高め続けていきます。</p>

## 6. ～代表者（若宮隆志）からのメッセージ～



- 昭和39年 石川県輪島市に生まれる
- 昭和59年 塗師屋に就職し、輪島塗の製造販売の基礎を学ぶ
- 昭和63年 喜三誠山師より蒔絵技法を教わる
- 平成6年 下地塗りを母や友人より教わる
- 平成7年 輪島民芸家具(輪民)を立ち上げ自宅の木材などを用い家具や器を家族で製造する
- 平成10年 平澤道和師より乾漆技法や漆の天日黒目などの漆芸の基礎を教わる
- 平成14年 輪島漆器青年会第三代会長を務める
- 平成16年 彦十蒔絵の名前で発表を始める

漆器は何千年ものあいだ日本人の生活と結びつき、民俗的な道具として使用され続けてきました、そこに先祖の想いや生きる知恵が込められていると思います、それらを学び作品に取り入れる事は、先祖の想いまでも後世に伝える事が出来ると考えおります。

古典の技法と意匠の研究開発により、現代生活の中に本物の漆芸を蘇らせる事を目的に取り組んでおります。

## 7. 作成支援士業コメント

中小企業診断士西井克己

代表から、どんな切り口でお話しを伺っても、その主張は一貫しております。すなわち「お客様と共鳴すること、そしてそのことでお客様に満足いただくこと」です。まさしく、代表の思いや「生き様」が作品に一貫して表れていると思います。

当社は、代表1名の会社であり、人的資産に依存していることはいうまでもありません。しかし、当社は人的資産だけではなく、社外の方と思いを共有するための構造資産を多く保有しております。具体的には、作品集を作成し、代表の思いを残し伝える仕組み、彦十蒔絵メンバーと徹底的に議論を行う仕組み、報酬を公開する仕組みであります。また、この仕組みを用いて当社は、多くの関係資産を形成するに至っております。すなわち、彦十蒔絵プロジェクトメンバーや制作協力者や美意識の高い近代日本美術コレクター等の協力者であります。この構造資産や関係資産を束ねるのは言うまでもなく、代表であるといえます。代表が、まさしく現代の漆の棟梁として今後1つでも多くの作品を世に出し、1人でも多くのお客様と共鳴されることを期待します。

行政書士勝尾太一

漆器といえば多くの方が輪島塗を想起するのではないであろうか。現代において、輪島塗は、漆器の代名詞といっても過言ではないであろう。

この輪島塗の産地において、彦十蒔絵代表である若宮隆志氏は、異彩を放っております。若宮氏の、出自である輪島塗の技法に拘泥することなく、創作に必要なあらゆる技法を用いて作品を創り出す。これが彦十蒔絵の強みであります。それは、輪島塗を否定するものではなく、輪島塗がなぜ多くの作業工程を必要としてきたのかといった原点に遡った結果であり、あらゆる技は、必要な用途に応じて使い分けられ進化するという深い考察の結果であります。

若宮氏が目指すものは、経営理念に表れているように、顧客の人の価値観や生き様といった観念的なものに共感、共鳴することにより、具現化するという気の遠くなる作業を通じた作品創りの中にあります。伝統工芸品産業事業者の中において、人的資産が要(かなめ)となることは当然であることが、その中において彦十蒔絵の人的資産が究極まで研ぎ澄まされた工房の一つであることは、疑いの余地はありません。関係資産たる職人に対しても、自らが研究してきた技法の実践のみならず、その作品に込められた思いや、価値観、物作りについての問題点を共有し、互いに競い合いながら、物作りに臨む体制を築き上げ、その価値を高めたことは大きく評価されるべきであります。また、若宮氏という人的資産が持つ価値観や研究の成果である種々の技法を作品集という形で発表(構造化)し、職人や顧客に対して多くのメッセージを発信する仕組みが構築されていることも継続的に事業を営む上で強みとなっております。各知的資産が有機的かつ強固に結びついている彦十蒔絵の今後に大いに期待します。

弁理士横井敏弘

彦十蒔絵・若宮隆志(以下、当社)は、芸術性の高い作品を作り、国内外の個人(主に、美術品のコレクター)に販売してきました。作品作りにおいては、輪島塗の技法(当社代表のルーツ)に軸足を置きつつも、これに囚われることなく、作品の芸術性を高めるために最適な技法を採用しております。これは、当社代表の漆芸に対する広い見識と、高い美意識によって、初めて可能となるものです。また、問題意識や価値観を共有する職人とコラボレートすることも重要な要素となっております。そして、お客様の価値観や生き様に共鳴する作品作りにこだわり、物語りやユーモアが織り込まれた作品なども提案しております。このような作品の根底を流れる思想・情感を「いかに伝えるか」が、今後確かなファンを獲得していく上で重要になると考えます。また、作品の思想や情感の理解が、当社のブランドイメージを形成していくものと考えます。

漆芸の求道者として、より多くの確かなファンを獲得されることを期待しております。

## 8. 知的資産経営報告書とは

### 【意義】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、経営理念、顧客とネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー(利害関係者)に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動(価値創造戦略)として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成いたしております。

### 知的資産のイメージ



### 【注意事項】

本知的資産経営報告書に掲載しております将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘る弊社を取り巻く経営環境(内部環境及び外部環境)の変化によって、これらの記載する内容などを変更する必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するものではないことを、充分にご了承願います。

この知的資産経営報告書は、石川県が株式会社迅技術経営に委託した石川県民間提案型継続雇用創出事業「伝統的工芸品産業事業者の魅力伝える知的資産経営報告書作成事業」により作成いたしました。